

＜その他、取組に特徴のある事例＞

○農業体験と高付加価値型農業としてのブドウ栽培

1 集落協定の概要

市町村・協定名	長野県小諸市 もろ 諸			
協定面積 約 11.6ha	田（71.4％）	畑（28.6％）	草地（0％）	採草放牧地(0％）
	水稲 （83,335 ㎡）	ブドウ （33,312 ㎡）		
交付金額（H23） （10割単価） 175万円	個人配分 0％			
	共同取組活動 （100％）	役員手当	9.1％	
		多面的機能増進活動費	17.1％	
		道水路管理費	53.1％	
		農地保全管理費	17.1％	
		事務経費	3.6％	
協定参加者	農業者 33人 農業協同組合			

畑については、交付金対象外。

2 取組に至る経緯

本地区は、上信越自動車道小諸インター開設以降農用地の開発が進み、小諸高原美術館、富士見城跡が整備され、マンズワイン小諸工場等もあることから、小諸の観光拠点ともなっている。近年は農家・非農家の混住化が進み、地区内の農業従事者の高齢化・後継者不足から従来どおりの耕作を続けることが難しい状況も発生しており、集落協定参加者が協力し、農業後継者の確保・認定農業者の育成、農作業の共同化・機械化、耕作放棄地の発生防止等を目指して事業に取り組んだ。

3 取組の内容

隣接する小諸市水明小学校と連携して農業体験学習に取り組んでおり、協定参加者は農地の提供、耕起、草刈、農作業の指導等の面で協力している。収穫した作物が授業の教材や学校給食に利用されている他、当地域は「ブドウ」栽培に適しているため、協定にブドウ畑を含めブドウ栽培にも力を入れている。



(稲刈り体験)



(集落全景)

[集落の将来像]

中山間地域特有の自然環境を残し、水田の保水機能の維持・畑地等緑地景観としての機能を持つ農用地を将来に亘り守ってゆく。



[将来像を実現するための活動目標]

農業生産活動等

農地の耕作・管理(田 8.3ha)
(畑 3.3ha)

個別対応

道水路の管理

- ・水路(年2回)
清掃、草刈
- ・道路(年2回)
清掃、草刈
- ・矢鼻堰(5月～9月毎日)
管理(当番による)

共同取組活動

農地法面定期的点検、法面・道水路の補修・改良(随時)

個別対応、共同取組活動

多面的機能増進活動

地元小学校との連携(農業体験)

共同取組活動

ビオトープとして蛍の育成

共同取組活動

景観作物の作付け(ヒマワリ)

共同取組活動

農業生産活動の体制整備

高付加価値型農業の実践(加工ブドウ栽培)

共同取組活動

機械及び農作業の共同化

(現在:2ha、目標:3.2ha)

共同取組活動

4. 今後の課題等

地元の小学生に農業体験をしてもらうことにより、農業への関心を持ってもらうことができた。

一方で、農業者の高齢化、担い手不足は避けられない状況であるため、さらに農業生産活動の体制整備の充実が必要である。

[第2期対策までの主な成果]

- 維持管理地を小学生の農業体験圃場として利用することで、耕作地という形で管理できるようになった。
- 交付金の対象外ではあるが、ブドウ畑も協定に含め共同取組活動として取り組みができるようになった。